

2018年3月5日  
公益財団法人イオン環境財団

## 地域の方々に愛される公園を美しい桜の名所に 「第2回 ベトナム ハノイ桜植樹」を実施



日越外交関係樹立45周年記念事業に認定

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は3月10日（土）、ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）ハノイ市のホアビン平和公園において、「第2回 ベトナム ハノイ桜植樹」を実施します。

ハノイ市人民委員会は、環境保全活動の一環として2016年より「ハノイ市100万本植樹計画」を推進しています。当財団は本計画に賛同し、ホアビン平和公園が市民の皆さまに愛される桜の新名所となることを願い、昨年に続き植樹を実施します。苗木は、ハノイ市と高温多湿な点で共通する九州で育った桜をもとに、ベトナムの環境に適応できるように種から育てたもので、500本を200名のボランティアの皆さまとともに植樹します。

なお本年は、ベトナムと日本の外交関係樹立45周年にあたり、本植樹は在ベトナム日本国大使館より、日越外交関係樹立45周年記念事業の認定を受けています。

当財団は、アジアを中心に世界各国で環境保全活動に取り組んでいます。ベトナムにおいては、フエ省ランコービーチにて2010年より3年間で75,000本、ハノイ市郊外バ・ヴィ国立公園にて2014年より3年間で15,000本を植樹しました。また昨年は、本植樹の第1回として、ホアビン平和公園に200本の桜を植樹しています。これらの植樹活動は、のべ3,200名のベトナムと日本両国のボランティアの皆さまによって行われ、植えられた木々は両国友好のシンボルとなっています。

今後も当財団は、いのちあふれる美しい自然を未来の子どもたちに引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

### 記

日 時 2018年3月10日（土）9：00～10：30  
場 所 ベトナム ハノイ市 ホアビン平和公園  
参加人数 200名  
植樹本数 500本  
樹 種 桜（エドヒガン）  
主 催 ハノイ市人民委員会、公益財団法人イオン環境財団  
後 援 在ベトナム日本国大使館  
主な出席者 ハノイ市人民委員会 委員長  
在ベトナム日本国大使館 特命全権大使  
公益財団法人イオン環境財団 理事長  
イオン株式会社 名誉会長相談役  
イオンモール株式会社 代表取締役社長  
イオン株式会社 ベトナム事業担当

グエン・ダック・チュン 様  
梅田 邦夫 様  
岡田 卓也  
吉田 昭夫  
西嶋 泰男

以上

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、国内外での植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動に継続し取り組んでいます。

<公益財団法人イオン環境財団ホームページ> <http://www.aeon.info/ef/>

### ■植樹活動

#### 「ベトナム フェ植樹」

ベトナム中部に位置するフェ省は、ベトナム最後の王朝グエン王朝の都であり、ベトナム初の世界遺産に登録されました。フェ省のランコー地区はリゾート開発が進められていますが、雨季に川が増水し、市街地の家屋が浸水する被害が多発しており、同地区に美しい水辺を取り戻すため、当財団は5年計画で植樹・育樹を実施しました。2010年～2012年の3年間、日本とベトナムのボランティアのべ1,400名とともに、計75,000本を植樹しました。



2010年 フェ植樹

#### 「ベトナム ハノイ植樹」

ハノイ郊外に位置するバ・ヴィ国立公園では、ベトナム戦争時の爆撃被害や戦後復興時の住宅・家具等への材木利用、近隣住民による生活伐採によって荒廃した森が放置されており、当財団はベトナム国家大学ハノイ校と協力し、地域の学生や住民の方の環境教育支援を行うとともに、公園内の豊かな自然の回復を目指して、2014年～2016年の3年計画で、日本とベトナムのボランティアのべ1,700名の皆さまとともに、計15,000本を植樹しました。



2015年 ハノイ植樹

#### 「ベトナム ハノイ桜植樹」

今回実施する植樹の第1回として、2017年に120名のボランティアの皆さまとともに、200本の桜を植樹しました。当日は、公益財団法人イオンワンパーセントクラブが行う「ティーンエイジ アンバサダー（高校生交流）事業」に参加中のベトナムと日本の高校生32名とホストファミリー計65名が参加しました。



2017年 ハノイ桜植樹

### ■生物多様性アワード

2010年に名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されるのに先立ち、2009年に環境省との共催で国内賞「生物多様性日本アワード」を創設。また2010年には当財団設立20周年を記念し、国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」を創設しました。以来、国内賞と国際賞を交互に隔年で実施しています。生物多様性に関して積極的な活動に取り組む国内の団体や、世界・地域レベルで顕著に貢献している個人を顕彰することで、生物多様性についての関心を高めることを目的としています。

2012年に開催した第2回生物多様性みどり賞では、戦争で疲弊した国土の緑化を通じて他の開発途上国における自然環境保全・修復の手本を示し、破壊された自然の再生に取り組まれたベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長 ポ・クイ氏を顕彰しました。同氏の受賞をきっかけに、ベトナム国家大学ハノイ校が2013年から当財団主催の「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」に参加するほか、2014年から2016年に実施した「ベトナム ハノイ植樹」が実現しました。

### ■環境教育「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」

環境分野においてグローバルなステージで活躍する人材育成を目的に、2012年より10年計画でASEPを開催しています。アジア各国の大学生が集まり、それぞれの国の自然環境や歴史、文化、価値観の違いを学びながら、生物多様性について意見を交換し学び合います。

第4回となる2015年はベトナムで開催し、カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの6カ国72名の学生が集まり、「生物多様性と人」をテーマに自然との共生についてディスカッションを重ねました。同年の教育プログラムは、ベトナム国家大学ハノイ校監修、早稲田大学協力によるもので、参加者は世界遺産ハロン湾などでのフィールドワークや有識者からの講義、地域の方々へのインタビューなどを通して環境への理解を深めました。



2015年 第4回ASEP

### 【公益財団法人イオンワンパーセントクラブについて】

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）は1989年に設立。イオングループ主要企業が拠出した税引き前利益の1%を原資に、「次代を担う青少年の健全な育成」、「諸外国との友好親善の促進」、「地域社会の持続的発展」を事業目的として、アジアを中心とした各国においてさまざまな活動を行っています。

### ■ティーンエイジ アンバサダー事業（日本 ベトナム）

1990年より、アジア各国と日本の高校生が互いの国への訪問を通じて交流する「ティーンエイジ アンバサダー」事業を実施しています。自国を代表する小さな大使（アンバサダー）として、両国の政府、大使館への表敬訪問、授業体験やホームステイを通じて国際的な相互理解と親交を深めるプログラムです。ベトナムとの相互交流は2007年、2013年に続き、2017年に3回目を実施しました。



2017年 日本での授業体験

### ■学校建設支援事業

2000年より毎年、お客さまや従業員から寄せられた募金にイオン1%クラブがほぼ同額を拠出し、学校建設の支援をはじめ、学習に必要な教材の提供や教員の育成プログラムなどの支援を行っています。ベトナムでは、フエ省人民委員会の協力のもと、2010年から2013年にかけて30校の小学校建設を支援しました。

### ■イオン スカラシップ

2011年にスタートした給付型奨学金制度「イオン スカラシップ」では、ベトナムにおいては、ハノイ人文社会科学大学、ハノイ貿易大学、ホーチミン市人文社会科学大学、ホーチミン市教育大学において、これまでにのべ746名の学生に奨学金を付与しています。また、同年にはイオンがホーチミン市人文社会科学大学と「人材の採用」「小売の発展をテーマとした共同研究」「インターンシップの受け入れ」などの取り組みを含めたパートナーシップを締結しています。



2016年 イオン スカラシップ 認定書 授与式

### ■アジア ユースリーダーズ

次代を担う日本と海外の学生が一堂に会し、開催地の社会問題をテーマに視察・ディスカッションを行い、問題の改善に向けて政府に提案する「アジア ユースリーダーズ」を、2010年、2011年、2014年に、ハノイ市及びホーチミン市で開催しました。学生の皆さんは、多国間での議論を交わすことで、グローバル感覚や異なる価値観を認め合う姿勢を養いました。